

5

国家社会と人間性 (3) -実存主義

教科書 pp.42~43

別冊解答 pp.7~8

基本事項を整理しよう

実存主義の先駆 本来的な自己を求めて

- (1)デンマークの① **キルケゴール** は、ヘーゲル哲学を抽象的思考と批判し、「私がそのために生き、そして死にたいと思うような② **理念** (イデー)」を求め、「③ **主体性** が真理である」と主張する。
- (2)① によれば、理性と感情が分裂している人間は、選択の正しさを疑うことから④ **不安** に陥り、さらに生きていくことに⑤ **絶望** する。しかし、⑤ を通じて真実の自己、すなわち⑥ **実存** に到達するという。
- (3)① が⑦ **キリスト者** であったのに対して、⑧ **ニーチェ** は反キリスト者であった。ヨーロッパ文明が衰退しつつあり、人びとは生きる意味や目的を失った⑨ **ニヒリズム** に陥っていると主張する。その原因は、キリスト教で、社会的弱者に同情することを教えたが、それは強者への⑩ **ルサンチマン** (怨恨) に満ちた⑪ **奴隷道徳** に他ならない。
- (4)それゆえ、「⑫ **神は死んだ** 」ということ認め、既成道徳を破壊してあらゆる価値の転倒をめざし、⑬ **力への意志** により新しい価値を創造する⑭ **超人** とならなければならない。
- (5)⑭ は、すべてが繰り返されるという⑮ **永劫回帰** の事実にもたじろがず、それを認め、運命として愛する(⑯ **運命愛**)、と主張した。

実存主義の成立と展開

- (6)⑰ **ヤスパース** は、人間は死・苦悩・闘争などの⑱ **限界状況** に取り囲まれ、いずれはそれらに直面せざるを得ない。だが、自己の有限性を自覚し、自己を超える⑲ **超越者** の存在を感じることで、⑥ に達する、という。
- (7)⑳ **ハイデガー** は、人間を㉑ **現存在** と呼び、人間は世界のうちに投げこまれ(㉒ **被投性**)、さまざまな道具との連関の中で㉓ **世界内存在** として生きている、という。
- (8)没個性的な、誰でもよい誰かとして、日常に埋没している多くの人間のあり方を㉔ **世人** (ダス・マン) と呼び、非本来的なあり方だと批判するが、自らが㉕ **死へと関わる存在** であることを自覚することで、⑥ を回復すると考えた。
- (9)㉖ **サルトル** は「㉗ **実存は本質に先立つ** 」とし、⑥ が先で、自由な行為によって自らが何者であるかを定めるが、自由のゆえに人間は自分自身に責任を負わなければならない。これを「㉘ **自由の刑** に処せられている」という。
- (10)人間は自由を行使するとき、他者と関わり、自己を社会に投げ込み、社会に拘束される。その関わりの中で、自由を行使して、社会をより自由なものへと変革していく。これを㉙ **アンガジュマン** (政治参加・社会参加) という。
- (11)㉚ の協力者であった㉛ **ポーヴォワール** は、「人は女に生まれるのではない。女になるのだ」として、「女性」が社会的に作られたものであると主張し、のちの㉜ **フェミニズム思想** に大きな影響を与えた。



実存

現実に存在するもの、
現実存在のこと。



実存主義

社会主義のような社会
体制の改革ではなく、
主体的な自己の生き方
としての真理を求め、
人間性の回復をはかろ
うとする。



反キリスト者

ニーチェは、人間を無
力化させた原因は理性
を過度に重視したから
だとする。その基盤に
キリスト教道徳がある
とした。



実存への目覚め

ヤスパースは他者との
実存的交わりが必要と
考える。



ハイデガーの存在

「存在(ある)」と「存
在者(あるもの)」を
区別し、人間は「存在
者」として世界に関わ
りながら存在している。



サルトルの「責任」

人間は自己に責任を負
うことで、全人類に対
する新しい責任がある
とする。



シモーヌ＝ヴェイユ

真理を探究する姿勢を
つらぬき、ポーヴォ
ワールら同時代の哲学
者に影響を与えた。

図や表で整理しよう

キルケゴールの実存

[① 美的実存]

…「あれも、これも」と享樂を追求する

↓絶望

[② 倫理実存]

…「あれか、これか」の選択をして責任を引き受ける

↓絶望

[③ 宗教実存]

…自己の有限性と良心の呵責から [④ 罪] の意識におののく
→ 神の前に立つ [⑤ 単独者] として信仰に生きる

 Point キルケゴールが説いた実存に到達する三段階の内容を整理しておこう。

基本事項の確認

- ①キルケゴールやニーチェを先駆者として、社会主義とは異なる仕方で、人間を具体的に、また主体的にとらえ直す思考形態を何というか。
- ②キルケゴールは、宗教実存の段階において、自己の有限性と良心の呵責から罪の意識におののきながらも、神の前に立つ者を何と呼んだか。
- ③ニーチェは、既成道徳を破壊してあらゆる価値の転倒をめざし、力への意志によって新しい価値を創造する存在を何と呼んだか。
- ④ヤスパースは、人間は限界状況において自己の有限性を自覚し、そのとき有限性を越えた存在を感じると説いたが、その存在を何と呼んだか。
- ⑤ハイデガーは、現存在である人間が、自己の非本来的な存在ではなく、本来的な実存を回復するために、自らをどのような存在と自覚しなければならぬと考えたか。
- ⑥サルトルが説いた、人間が自由を行使して、社会をより自由なものへと変革していく社会参加のことを、カタカナで何というか。

.....
実存主義

.....
単独者

.....
超人

.....
超越者（包括者）

.....
死へと関わる存在

.....
アンガジュマン

まとめてみよう

ハイデガーは、いかにして実存を回復すると考えているか、その内容をまとめてみよう。

 ヒント

ハイデガーが「人間」をどのように考えていたかを中心にまとめてみよう。

.....
ハイデガーは、人間の非本来的なあり方をダス・マン（世人）と呼んで批判し、人

.....
間自らが死へと関わる存在であることを自覚することによって、本来的な実存を回

.....
復すると考えた。